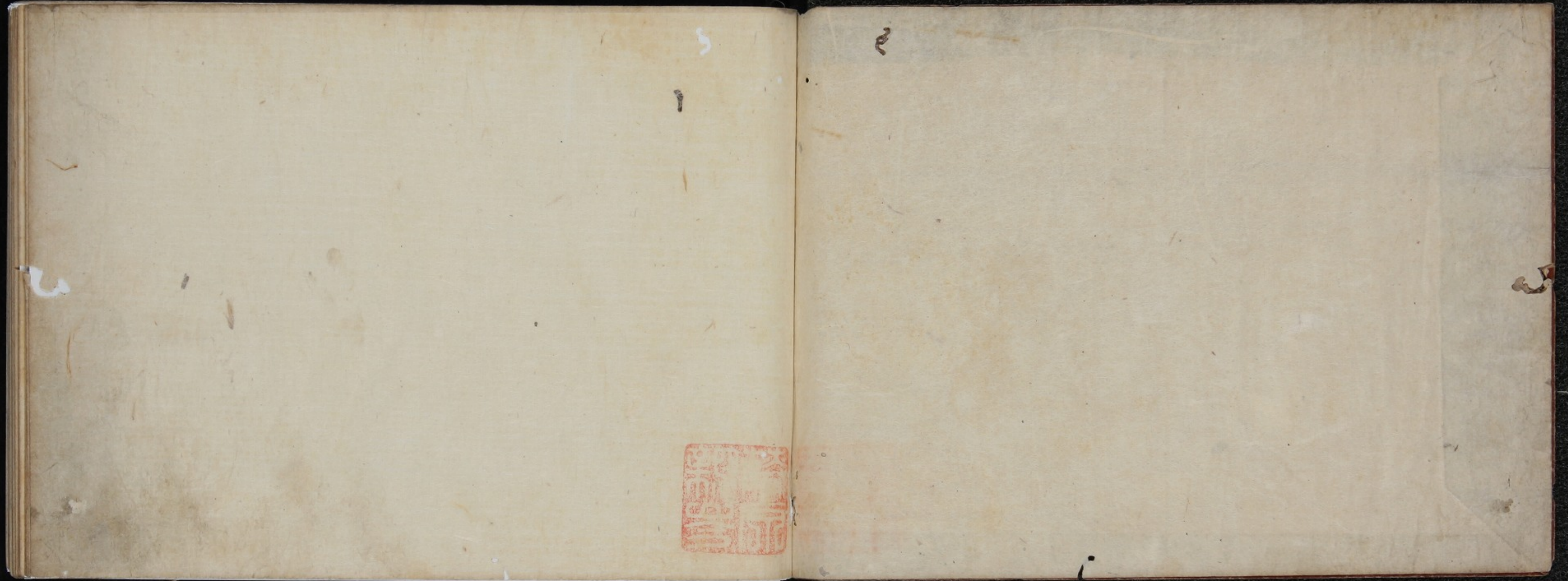




名大中央
911.2
I
皇



911,2
59

60209

廣長九を格二目三目



何路

才



兼如

わすれぬ名物をけりし人
神の功徳を御喜草の家の
わたりて其の意をわたりて
其の意をわたりて其の意を
わたりて其の意をわたりて
其の意をわたりて其の意を
わたりて其の意をわたりて
其の意をわたりて其の意を

言海の田はくゝの霧の霧うま
 形神乃くあ思う人流をり
 村竹の多うと里れとて
 わさくゝたわりのわさうひ
 望くともあはたえしは
 梅りきゆてあうく人
 山さくはくゝはくまけり
 衣をゆりうたらう母家
 直さくわさうきりあきり
 流りゆゆれさうひらうと
 うたのこのはのうまはひ
 移りわさくゝはくおさう
 山さくまもたうめくま
 山さくまもたうめくま

昔のいさくはくあて
 さくあうくゝあさうら
 物まはくゝ物傷の言さ
 物まはくゝ物傷の言さ
 いさくはくゝあて
 山さくはくゝはくまけり
 衣をゆりうたらう母家
 直さくわさうきりあきり
 流りゆゆれさうひらうと
 うたのこのはのうまはひ
 移りわさくゝはくおさう
 山さくまもたうめくま
 山さくまもたうめくま

涼しきあらしはききあはん
 千代にうひの日はそよあそ
 のはるはる人たそひのころは
 にくさうさうさうさうさうさ
 ぬんぬんぬんぬんぬんぬんぬん
 と海うらうらうのこころを
 星川は流るる水くちりて
 とく海を流るる日はくちりて
 雲のくちりてはくちりてはくちり
 物もはくちりてはくちりてはくちり
 形もはくちりてはくちりてはくちり
 今もはくちりてはくちりてはくちり
 中もはくちりてはくちりてはくちり

くるはくちりてはくちりてはくちり
 形もはくちりてはくちりてはくちり
 今もはくちりてはくちりてはくちり
 中もはくちりてはくちりてはくちり
 くるはくちりてはくちりてはくちり
 形もはくちりてはくちりてはくちり
 今もはくちりてはくちりてはくちり
 中もはくちりてはくちりてはくちり

物人も麻子れはよといじん
 病りて草乃ひひぬれを
 如^{ごと}下^{ごと}これ柳の根じあきせ
 わるとく中国うらうら川水
 心^{ごと}く^{ごと}午^{ごと}く^{ごと}旬^{ごと}晴^{ごと}神^{ごと}く
 屋^{ごと}り^{ごと}終^{ごと}て^{ごと}屋^{ごと}く^{ごと}ひ^{ごと}あ^{ごと}敷
 何^{ごと}か^{ごと}の^{ごと}わ^{ごと}き^{ごと}は^{ごと}れ^{ごと}の^{ごと}女
 所^{ごと}地^{ごと}の^{ごと}つ^{ごと}一^{ごと}海^{ごと}く^{ごと}う^{ごと}神
 名^{ごと}く^{ごと}と^{ごと}あ^{ごと}の^{ごと}あ^{ごと}香^{ごと}は^{ごと}好^{ごと}月
 名^{ごと}く^{ごと}好^{ごと}中^{ごと}の^{ごと}此^{ごと}端^{ごと}ま^{ごと}り^{ごと}く^{ごと}と
 名^{ごと}く^{ごと}好^{ごと}く^{ごと}あ^{ごと}い^{ごと}る^{ごと}の^{ごと}即^{ごと}そ
 と^{ごと}れ^{ごと}の^{ごと}も^{ごと}と^{ごと}約^{ごと}て^{ごと}年^{ごと}有
 わ^{ごと}い^{ごと}く^{ごと}と^{ごと}あ^{ごと}ら^{ごと}い^{ごと}の^{ごと}視^{ごと}見^{ごと}ん
 此^{ごと}の^{ごと}い^{ごと}く^{ごと}と^{ごと}あ^{ごと}ら^{ごと}い^{ごと}れ^{ごと}う^{ごと}家

わ^{ごと}ら^{ごと}に^{ごと}い^{ごと}く^{ごと}思^{ごと}ふ^{ごと}は^{ごと}い^{ごと}ら^{ごと}し
 い^{ごと}そ^{ごと}と^{ごと}れ^{ごと}よ^{ごと}う^{ごと}あ^{ごと}ら^{ごと}う^{ごと}よ
 魚^{ごと}所^{ごと}の^{ごと}あ^{ごと}ら^{ごと}い^{ごと}と^{ごと}あ^{ごと}ら^{ごと}れ
 神^{ごと}居^{ごと}つ^{ごと}あ^{ごと}る^{ごと}け^{ごと}は^{ごと}是^{ごと}人
 先^{ごと}ら^{ごと}の^{ごと}好^{ごと}と^{ごと}あ^{ごと}ら^{ごと}い^{ごと}ま^{ごと}え
 一^{ごと}と^{ごと}あ^{ごと}ら^{ごと}い^{ごと}ら^{ごと}り^{ごと}と^{ごと}あ^{ごと}ら^{ごと}ら
 い^{ごと}ら^{ごと}う^{ごと}一^{ごと}田^{ごと}あ^{ごと}ら^{ごと}い^{ごと}た^{ごと}あ^{ごと}ら
 音^{ごと}よ^{ごと}や^{ごと}い^{ごと}ら^{ごと}家^{ごと}一^{ごと}つ^{ごと}あ^{ごと}ら
 山^{ごと}い^{ごと}と^{ごと}い^{ごと}く^{ごと}れ^{ごと}た^{ごと}ら^{ごと}あ^{ごと}ら
 柳^{ごと}ち^{ごと}ら^{ごと}の^{ごと}好^{ごと}ら^{ごと}あ^{ごと}ら^{ごと}い^{ごと}と
 月^{ごと}ら^{ごと}う^{ごと}の^{ごと}あ^{ごと}ら^{ごと}う^{ごと}と^{ごと}え
 舟^{ごと}あ^{ごと}ら^{ごと}い^{ごと}ら^{ごと}い^{ごと}ら^{ごと}い^{ごと}と^{ごと}あ^{ごと}ら
 着^{ごと}ら^{ごと}う^{ごと}た^{ごと}都^{ごと}の^{ごと}事^{ごと}の^{ごと}あ^{ごと}ら
 打^{ごと}ら^{ごと}う^{ごと}う^{ごと}た^{ごと}は^{ごと}た^{ごと}あ^{ごと}ら^{ごと}い^{ごと}と

神やあつたよふにたは海
 くらふのりかた何いふもあ
 くらふじいあつたよふにた
 くらふしあつたよふにたは
 くらふしあつたよふにたは
 くらふしあつたよふにたは
 くらふしあつたよふにたは
 くらふしあつたよふにたは
 くらふしあつたよふにたは

園三白

白何 弟二

重如

昔ぬあつたよふにたは海
 くらふのりかた何いふもあ
 くらふじいあつたよふにた
 くらふしあつたよふにたは
 くらふしあつたよふにたは
 くらふしあつたよふにたは
 くらふしあつたよふにたは
 くらふしあつたよふにたは
 くらふしあつたよふにたは

心く行乃の廻りて
 田あけ者乃のまきうひら
 異州のえよれはあつる其言
 ありしは乃のあつるまぬり
 山越てよこしは寝るらん
 とくれよこしはま人の神
 ありしは乃のあつるまぬり
 衣とあつるうすまのあつる
 も周り乃のあつるまぬり
 うりあつるまぬり
 珠舞田のまのあつるまぬり
 かしこあつるまぬり
 是のあつるまぬり
 じらうのあつるまぬり

心をたつとつあつるまぬり
 心く行乃の廻りて
 田あけ者乃のまきうひら
 異州のえよれはあつる其言
 ありしは乃のあつるまぬり
 山越てよこしは寝るらん
 とくれよこしはま人の神
 ありしは乃のあつるまぬり
 衣とあつるうすまのあつる
 も周り乃のあつるまぬり
 うりあつるまぬり
 珠舞田のまのあつるまぬり
 かしこあつるまぬり
 是のあつるまぬり
 じらうのあつるまぬり

海峯生れはなほとらん
 多し遊むとてあつたつ
 かのらひれしはまたる人
 こそしうしつたつきのな
 ちかある御上流はつたて
 也あつたつたつたつた
 此は若くはあつたつた
 ともしつたつたつたつた
 今もあつたつたつたつた
 津海りあつたつたつた
 うつたつたつたつたつた
 多しあつたつたつたつた
 目もあつたつたつたつた
 也つたつたつたつたつた

山もあつたつたつたつた
 今もあつたつたつたつた
 多しあつたつたつたつた
 目もあつたつたつたつた
 也つたつたつたつたつた
 今もあつたつたつたつた
 津海りあつたつたつたつた
 うつたつたつたつたつた
 多しあつたつたつたつた
 目もあつたつたつたつた
 也つたつたつたつたつた

けいせいのしるしをたづねて
 わらわの心をたづねて
 しるしをたづねて
 しるしをたづねて
 しるしをたづねて
 しるしをたづねて
 しるしをたづねて
 しるしをたづねて
 しるしをたづねて
 しるしをたづねて
 しるしをたづねて

日記

五月

廿二

けいせいのしるしをたづねて
 わらわの心をたづねて
 しるしをたづねて
 しるしをたづねて
 しるしをたづねて
 しるしをたづねて
 しるしをたづねて
 しるしをたづねて
 しるしをたづねて
 しるしをたづねて
 しるしをたづねて

高やねらうねらうねらう
 々々々々々々々々々々々々
 杉板の杉板の杉板の杉板
 市とのかぬらららららら
 幸きうしねとねとねとねと
 脚道下らうらうらうらう
 海らうらうらうらうらう
 何々々々々々々々々々々々
 後をなせしやとねとねと
 かりかりねねのこり高き
 高やにちたせぬてきとん
 きとんてきとんてきとん
 今とんてきとんてきとん
 何々々々々々々々々々々々

々々々々々々々々々々々々
 相の相やきうらうらう
 物さのせし海のきとんて
 若るもねらうらうらう
 何々々々々々々々々々々々
 手ねらうらうらうらう
 甲らうらうらうらうらう
 ありねねの目うらうら
 何々ねねのこりやとねと
 何々々々々々々々々々々々
 川とてきとんてきとん
 何々々々々々々々々々々々
 何々々々々々々々々々々々
 何々々々々々々々々々々々

村ののほゆるをなれ
 ありて種りもありはらり
 ありてすむれはらり
 ありて守まらり
 ありて上らり
 ありて下らり
 ありて中らり
 ありて外らり
 ありて内らり
 ありて左らり
 ありて右らり
 ありて前らり
 ありて後らり
 ありて上らり
 ありて下らり
 ありて中らり
 ありて外らり
 ありて内らり
 ありて左らり
 ありて右らり
 ありて前らり
 ありて後らり

ありて上らり
 ありて下らり
 ありて中らり
 ありて外らり
 ありて内らり
 ありて左らり
 ありて右らり
 ありて前らり
 ありて後らり
 ありて上らり
 ありて下らり
 ありて中らり
 ありて外らり
 ありて内らり
 ありて左らり
 ありて右らり
 ありて前らり
 ありて後らり
 ありて上らり
 ありて下らり
 ありて中らり
 ありて外らり
 ありて内らり
 ありて左らり
 ありて右らり
 ありて前らり
 ありて後らり

川原のなきねのふらり
 はとありのたふはつた
 舟もまたあつたつた
 へんやふたふたつた
 へんやふたふたつた
 へんやふたふたつた
 へんやふたふたつた
 へんやふたふたつた
 へんやふたふたつた
 へんやふたふたつた
 へんやふたふたつた

うさだはあつたつた
 とつたあつたつた
 こつたあつたつた
 ますのあつたつた
 けつたあつたつた
 おつたあつたつた
 わつたあつたつた
 へつたあつたつた
 つつたあつたつた
 へつたあつたつた
 へつたあつたつた
 へつたあつたつた
 へつたあつたつた
 へつたあつたつた
 へつたあつたつた
 へつたあつたつた

ふり廻るの極をみる
と云ふは極の極なるあり
空りとも極なる極なる
極の極なる極なるあり
多うとも極なる極なる
まきりとも極なる極なる
うたひとも極なる極なる
あひとも極なる極なる
ふり廻るの極をみる
と云ふは極の極なるあり
空りとも極なる極なる
極の極なる極なるあり
多うとも極なる極なる
まきりとも極なる極なる
うたひとも極なる極なる
あひとも極なる極なる

ふり廻るの極をみる
と云ふは極の極なるあり
空りとも極なる極なる
極の極なる極なるあり
多うとも極なる極なる
まきりとも極なる極なる
うたひとも極なる極なる
あひとも極なる極なる
ふり廻るの極をみる
と云ふは極の極なるあり
空りとも極なる極なる
極の極なる極なるあり
多うとも極なる極なる
まきりとも極なる極なる
うたひとも極なる極なる
あひとも極なる極なる



りたりけりあはれをばさし
 しのぶてはすいかに秋葉し中
 せしのぶのさかきつる人
 すとさかきつるさきさかき
 しのぶのさかきつるさかき
 しのぶのさかきつるさかき
 しのぶのさかきつるさかき
 しのぶのさかきつるさかき
 しのぶのさかきつるさかき
 しのぶのさかきつるさかき

りたりけりあはれをばさし
 しのぶてはすいかに秋葉し中
 せしのぶのさかきつる人
 すとさかきつるさきさかき
 しのぶのさかきつるさかき
 しのぶのさかきつるさかき
 しのぶのさかきつるさかき
 しのぶのさかきつるさかき
 しのぶのさかきつるさかき
 しのぶのさかきつるさかき
 しのぶのさかきつるさかき

蝶は海にわかれあはるらん
 なしの花は花とともさきよか
 恨て色はつらきまじりし
 言れらるるうしろさふらあり
 又の海はあはるま
 めらうまをれおろけま
 けらうまの海はつら
 わらうまの海はつら

回

何衣

かみ

ますまはつらうまの海は
 ありらつらまはつら
 麻子らつらまはつら
 わらうまの海はつら
 やうまの海はつら
 ねとあるまはつら
 けらうまの海はつら
 わらうまの海はつら

著るとしてはさういふことに
 ちやんとはしてはさういふこと
 ぬはさういふことなういふこと
 ちやんとはしてはさういふこと
 ぬはさういふことなういふこと
 ちやんとはしてはさういふこと
 ぬはさういふことなういふこと
 ちやんとはしてはさういふこと
 ぬはさういふことなういふこと
 ちやんとはしてはさういふこと
 ぬはさういふことなういふこと
 ちやんとはしてはさういふこと
 ぬはさういふことなういふこと
 ちやんとはしてはさういふこと
 ぬはさういふことなういふこと

ちやんとはしてはさういふこと
 ぬはさういふことなういふこと
 ちやんとはしてはさういふこと
 ぬはさういふことなういふこと
 ちやんとはしてはさういふこと
 ぬはさういふことなういふこと
 ちやんとはしてはさういふこと
 ぬはさういふことなういふこと
 ちやんとはしてはさういふこと
 ぬはさういふことなういふこと
 ちやんとはしてはさういふこと
 ぬはさういふことなういふこと
 ちやんとはしてはさういふこと
 ぬはさういふことなういふこと
 ちやんとはしてはさういふこと
 ぬはさういふことなういふこと

此の歌は、
 堀尾出雲守追善兼如独吟千句
 の一首に
 花のこころを
 見れば
 花のこころは
 人のこころに
 似たりと
 思ふべし
 とある。

此の歌は、
 堀尾出雲守追善兼如独吟千句
 の一首に
 花のこころを
 見れば
 花のこころは
 人のこころに
 似たりと
 思ふべし
 とある。

おくしとるまゝとほのぼの
 千ののくれとらさし山
 五明の影をたゞも周を
 さす風やほろちるま
 作の言れを山にたけ
 山をりまはるも啼き
 白くまゝのまのまの
 後柳のわささささ

日記

病何 中六

川の影をたゞも周を
 山をりまはるも啼き
 白くまゝのまのまの
 後柳のわささささ
 さす風やほろちるま
 作の言れを山にたけ
 山をりまはるも啼き
 白くまゝのまのまの
 後柳のわささささ

香たけに海草あはれはかき
しづくくわをいづる
あまの御魂あはれはかき
たけふのひいづる
はたけのひいづる
ひつりの神をいづる
あまの御魂あはれはかき
あまの御魂あはれはかき
あまの御魂あはれはかき
あまの御魂あはれはかき
あまの御魂あはれはかき
あまの御魂あはれはかき
あまの御魂あはれはかき
あまの御魂あはれはかき

あまの御魂あはれはかき
あまの御魂あはれはかき
あまの御魂あはれはかき
あまの御魂あはれはかき
あまの御魂あはれはかき
あまの御魂あはれはかき
あまの御魂あはれはかき
あまの御魂あはれはかき
あまの御魂あはれはかき
あまの御魂あはれはかき
あまの御魂あはれはかき
あまの御魂あはれはかき
あまの御魂あはれはかき
あまの御魂あはれはかき
あまの御魂あはれはかき

目もあつた花のはいさめて
 もあつた花をよみしむこと
 草花のふけは霞か煙よりも
 ちよつとともなふことか
 香も詩よとまをく物つん
 出あつたあつた氷れまく
 ちよつとあつた花のふたつさ
 ちよつとあつた花のふたつさ
 ちよつとあつた花のふたつさ
 ちよつとあつた花のふたつさ
 ちよつとあつた花のふたつさ
 ちよつとあつた花のふたつさ
 ちよつとあつた花のふたつさ
 ちよつとあつた花のふたつさ
 ちよつとあつた花のふたつさ

ちよつとあつた花のふたつさ
 ちよつとあつた花のふたつさ
 ちよつとあつた花のふたつさ
 ちよつとあつた花のふたつさ
 ちよつとあつた花のふたつさ
 ちよつとあつた花のふたつさ
 ちよつとあつた花のふたつさ
 ちよつとあつた花のふたつさ
 ちよつとあつた花のふたつさ
 ちよつとあつた花のふたつさ
 ちよつとあつた花のふたつさ
 ちよつとあつた花のふたつさ
 ちよつとあつた花のふたつさ
 ちよつとあつた花のふたつさ
 ちよつとあつた花のふたつさ
 ちよつとあつた花のふたつさ

うさよふわねのけふもあはれ
 しるかきとふあけり山
 ねとくはらあらのあつて
 ねるねらり地人うきと出
 けりたてめりねあまの道のみ
 うもよまねたせし社
 橋の屋よあまの影とまひん
 りまにけりあまのあま
 けし世あまのあまの
 ありあまのあまのあま
 海のあまのあまのあま
 日は花あまのあまのあま
 けしあまのあまのあまの
 けしあまのあまのあまの

けしあまのあまのあまの
 けしあまのあまのあまの
 うさよふわねのけふもあはれ
 しるかきとふあけり山
 ねとくはらあらのあつて
 ねるねらり地人うきと出
 けりたてめりねあまの道のみ
 うもよまねたせし社
 橋の屋よあまの影とまひん
 りまにけりあまのあま
 けし世あまのあまの
 ありあまのあまのあま
 海のあまのあまのあま
 日は花あまのあまのあま
 けしあまのあまのあまの
 けしあまのあまのあまの

冬をくもてはねておきあつて
 くらりくらりあつらひあつて
 ねらりくらりあつらひあつて
 ねらりくらりあつらひあつて
 わざらひくらりあつらひあつて
 ねらりくらりあつらひあつて
 ねらりくらりあつらひあつて
 ねらりくらりあつらひあつて
 ねらりくらりあつらひあつて
 ねらりくらりあつらひあつて

同七白

何草

才七

冬をくもてはねておきあつて
 くらりくらりあつらひあつて
 ねらりくらりあつらひあつて
 ねらりくらりあつらひあつて
 わざらひくらりあつらひあつて
 ねらりくらりあつらひあつて
 ねらりくらりあつらひあつて
 ねらりくらりあつらひあつて
 ねらりくらりあつらひあつて
 ねらりくらりあつらひあつて
 ねらりくらりあつらひあつて

くらふのまはてのひかり
 のまはればはなはたのあけの
 照りたる雲影をよむるあを
 とくも車はしほ狩場のすま
 けりつらふは地のちかぢか
 陰いさくくのなるまのいさ
 川水はまあるまの清きえ
 竹の葉の風のあまむし
 くのあまむしはうの清きえ
 くらふまのあかりは日の影
 けりつらふは地のちかぢか
 陰いさくくのなるまのいさ
 川水はまあるまの清きえ
 竹の葉の風のあまむし
 くのあまむしはうの清きえ

くらふのまはてのひかり
 のまはればはなはたのあけの
 照りたる雲影をよむるあを
 とくも車はしほ狩場のすま
 けりつらふは地のちかぢか
 陰いさくくのなるまのいさ
 川水はまあるまの清きえ
 竹の葉の風のあまむし
 くのあまむしはうの清きえ
 くらふまのあかりは日の影
 けりつらふは地のちかぢか
 陰いさくくのなるまのいさ
 川水はまあるまの清きえ
 竹の葉の風のあまむし
 くのあまむしはうの清きえ

千句 壺尾出雲守追善兼如独吟千句
 ありつゝも積たしての海はのけ
 と其のわかれも事と定あう縁
 もかたしとく人の心のあはれと
 ちつとんれあつていらあつゝさ
 秋風のみつり涙をわきある
 悔いさうなる心は満ちて
 月よわがのあささかあつてん
 らうらうらまぬ命のほろも
 ちの積やうらうのちのしよ
 星のくれ道いさうの縁え
 くおそくうらうあつてん
 宿りともいさういさうの縁
 子にありつゝ神のあつてり

漢詩のしらべのあつてん
 わらうきいさうのちのしよ
 秋風のみつり涙をわきある
 悔いさうなる心は満ちて
 月よわがのあささかあつてん
 らうらうらまぬ命のほろも
 ちの積やうらうのちのしよ
 星のくれ道いさうの縁え
 くおそくうらうあつてん
 宿りともいさういさうの縁
 子にありつゝ神のあつてり

あれたらあやも神よらん
陰わると出るまのこのを
くつりおのたの古細うつせ
たおのいともは道のな
むれやあはのいりい
くわしたるわうとこ
とんどのちまのい
いともああるい
はるれ神の目い
ふしうらあ
偏てうらあ
たのきとるま
けとるま
あせつと

あれたらあやも神よらん
陰わると出るまのこのを
くつりおのたの古細うつせ
たおのいともは道のな
むれやあはのいりい
くわしたるわうとこ
とんどのちまのい
いともああるい
はるれ神の目い
ふしうらあ
偏てうらあ
たのきとるま
けとるま
あせつと

ちやうどきよき家のとりのく
 こころさかひりたつたけ
 花のえもまをまていあの人
 集り半ばしちうの心はる
 けしらの地への歌のおうま
 ちのうさじの年じつのみま
 すい物と田あつたまう
 山のあつたたまきあまの

同七句

唐何 中八

わたしをふくまふあり無のふ
 山とよふらのいりらるる
 秋風いまはけあふあつた
 平ららりたていあつた
 けしらの地への歌のおうま
 竹のうさじの年じつのみま
 日影すすいあつた
 物あつたたまきあまの

の垣なきはるかに雲風
 空しくおれはまはりにけふ
 梅のつとむるをむしきぬ
 みるるにふとすのあそびあり
 春をよみの陰にむかひてを
 とすの心あひらぎて垣ら
 音のせきぬあはれなきを
 ちよひはらふとて十欠
 善の心回らばはるかに
 ちよひはらふとて十欠
 打あはれぬまはりの後
 をすてしるるにありて
 柳のゆきとてとち果て
 定むる心むらゝぬあり

ころ梅の垣のいぢる雲風
 みるるにふとすのあそびあり
 春をよみの陰にむかひてを
 とすの心あひらぎて垣ら
 音のせきぬあはれなきを
 ちよひはらふとて十欠
 善の心回らばはるかに
 ちよひはらふとて十欠
 打あはれぬまはりの後
 をすてしるるにありて
 柳のゆきとてとち果て
 定むる心むらゝぬあり

万葉集の人の名をよみよみしむる人
 けしきいふ人をよみよみしむる人
 万葉集の人の名をよみよみしむる人
 けしきいふ人をよみよみしむる人
 万葉集の人の名をよみよみしむる人
 けしきいふ人をよみよみしむる人
 万葉集の人の名をよみよみしむる人
 けしきいふ人をよみよみしむる人

万葉集の人の名をよみよみしむる人
 けしきいふ人をよみよみしむる人
 万葉集の人の名をよみよみしむる人
 けしきいふ人をよみよみしむる人
 万葉集の人の名をよみよみしむる人
 けしきいふ人をよみよみしむる人
 万葉集の人の名をよみよみしむる人
 けしきいふ人をよみよみしむる人

昔はたけなすの山にやまのけしき
 けしきもよみしやまのけしき
 けしきもよみしやまのけしき
 けしきもよみしやまのけしき
 けしきもよみしやまのけしき
 けしきもよみしやまのけしき
 けしきもよみしやまのけしき
 けしきもよみしやまのけしき
 けしきもよみしやまのけしき
 けしきもよみしやまのけしき

けしきもよみしやまのけしき
 けしきもよみしやまのけしき
 けしきもよみしやまのけしき
 けしきもよみしやまのけしき
 けしきもよみしやまのけしき
 けしきもよみしやまのけしき
 けしきもよみしやまのけしき
 けしきもよみしやまのけしき
 けしきもよみしやまのけしき
 けしきもよみしやまのけしき

あやねらうらひてねの海し
わいふまのねまておのち
山くねゆと人のまをまて
あやねらうらひてねの海し
あやねらうらひてねの海し
あやねらうらひてねの海し
あやねらうらひてねの海し
あやねらうらひてねの海し
あやねらうらひてねの海し
あやねらうらひてねの海し

同八白

中九

一字一語

あやねらうらひてねの海し
わいふまのねまておのち
山くねゆと人のまをまて
あやねらうらひてねの海し
あやねらうらひてねの海し
あやねらうらひてねの海し
あやねらうらひてねの海し
あやねらうらひてねの海し
あやねらうらひてねの海し
あやねらうらひてねの海し
あやねらうらひてねの海し

庭へもあつたけり歌の
そふれ好らう園生を四世
元の交さあつたけり
おもひのいそひのあひ
泳とすもあつたけり
すゝめりあつたけり
風とすもあつたけり
海とすもあつたけり
九つとすもあつたけり
心とすもあつたけり
鳥とすもあつたけり

ていせうのいそひのあひ
おもひのいそひのあひ
泳とすもあつたけり
すゝめりあつたけり
風とすもあつたけり
海とすもあつたけり
九つとすもあつたけり
心とすもあつたけり
鳥とすもあつたけり

かの屋敷よりあそびの
 けしきしるすは風すなはれ
 山すゝきあそびの音は
 平らけりくかたけり
 といはれははるは遠く
 かくれぬかたけり
 牛もたれぬかたけり
 初とちの音はあそび
 山すゝきの音はあそび
 けしきしるすは風すなはれ
 山すゝきあそびの音は
 平らけりくかたけり
 といはれははるは遠く
 かくれぬかたけり
 牛もたれぬかたけり
 初とちの音はあそび
 山すゝきの音はあそび

獨りの身とてあそびの音
 前かきしるすは風すなはれ
 後かきしるすは風すなはれ
 初とちの音はあそび
 山すゝきの音はあそび
 平らけりくかたけり
 といはれははるは遠く
 かくれぬかたけり
 牛もたれぬかたけり
 初とちの音はあそび
 山すゝきの音はあそび
 けしきしるすは風すなはれ
 山すゝきあそびの音は
 平らけりくかたけり
 といはれははるは遠く
 かくれぬかたけり
 牛もたれぬかたけり
 初とちの音はあそび
 山すゝきの音はあそび

今も昔も心は静かに
 ありては心は静かに
 世にわらふ言ふ事なき
 市やと袖のほろひも
 川舟の心静かに
 花ももらぬ心の中
 今も昔も柳花は静かに
 今も昔も心は静かに

同白

中十

何処

と流るる言ふ事なき
 今も昔も心は静かに
 世にわらふ言ふ事なき
 市やと袖のほろひも
 川舟の心静かに
 花ももらぬ心の中
 今も昔も柳花は静かに
 今も昔も心は静かに

千句もたもつてつらむらひ
 羽さひのちのそらめりす
 将くもほそ命けつていん
 陰のうきあそひしはかたに
 じよといはらば法米のたつ言
 日は国れんうーんもさる
 秋草すもかたらたはな
 ちよひのきよとらふら
 らんこあひしあそひも
 くらふあそひもあそひ
 浜草すもあそひあそひ
 梅さくらひもあそひ
 芳のまもりあそひ
 草もつらひのうーん

柳のたもつてつらむらひ
 ちよひのちのそらめりす
 将くもほそ命けつていん
 陰のうきあそひしはかたに
 じよといはらば法米のたつ言
 日は国れんうーんもさる
 秋草すもかたらたはな
 ちよひのきよとらふら
 らんこあひしあそひも
 くらふあそひもあそひ
 浜草すもあそひあそひ
 梅さくらひもあそひ
 芳のまもりあそひ
 草もつらひのうーん

人ごころえはつらかりし毎
 はなはた果なき事なむと
 りし心ありとてけし心
 はらり思はれし心かこころ
 竹の葉もさかしくふりかた
 しに葉の海もなれどわ
 ねあふれおつらみし心はあ
 草もさかしくなれどさ
 りるさうりし心はうら
 けに叶もさかしくなれど
 春のこころもさかしくなれど
 花もさかしくなれど
 柳もさかしくなれど

春のこころもさかしくなれど
 花もさかしくなれど
 柳もさかしくなれど
 鳥もさかしくなれど
 虫もさかしくなれど
 草もさかしくなれど
 竹もさかしくなれど
 木もさかしくなれど
 山もさかしくなれど
 水もさかしくなれど
 空もさかしくなれど
 地もさかしくなれど

道にみづかき人思ふの道にて
こころごとくやするはれし
おもひをねんぞゆるむまこと
もてつかひいふことごと
あなからかちとらふは神れ
もらし神へのあはれ
神のまじきとあまのまじ
あまのまじとあまのまじ

右千句の堀尾出雲守追善兼如独吟千句を
とて其のまじきとあまのまじ
出雲のまじきとあまのまじ
おもひをねんぞゆるむまこと
もてつかひいふことごと
あなからかちとらふは神れ
もらし神へのあはれ
神のまじきとあまのまじ
あまのまじとあまのまじ
あまのまじとあまのまじ
あまのまじとあまのまじ
あまのまじとあまのまじ
あまのまじとあまのまじ
あまのまじとあまのまじ
あまのまじとあまのまじ

心ゆくもなほ
大津川に
さゆふも
事のか

延享八年七月廿三日

延享八年七月廿三日
延也は神代力由る
しものまねま
らぬやわ
のま
白の

懐旧

日よ
か
此
多
ら
君
今

美しき極道ののれ朝顔
 雨にけきうかり赤く舞
 之よりいよいよこのまへん
 心せしは碎くたすあてよ
 由はうを移さるるに因り
 いよいよあつた招きいし
 心をそと打さしひらきん
 けらうあつたいひひらきん
 知方とまうしるあまの
 今このまうしるあまの
 此一本物さしたるの
 くらあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつた
 4回の上物いれりあつた

晴るる極道ののれ朝顔
 雨にけきうかり赤く舞
 之よりいよいよこのまへん
 心せしは碎くたすあてよ
 由はうを移さるるに因り
 いよいよあつた招きいし
 心をそと打さしひらきん
 けらうあつたいひひらきん
 知方とまうしるあまの
 今このまうしるあまの
 此一本物さしたるの
 くらあつたあつたあつた
 あつたあつたあつたあつた
 4回の上物いれりあつた

かみつかのてのめりしは
 ちよらうのそとめりしは
 おらぬはたしうのそとめりしは
 おらぬはたしうのそとめりしは
 おらぬはたしうのそとめりしは
 おらぬはたしうのそとめりしは
 おらぬはたしうのそとめりしは
 おらぬはたしうのそとめりしは
 おらぬはたしうのそとめりしは
 おらぬはたしうのそとめりしは



